



上段 医療機関名 下段 開設者名	現状【病床種別】					現状(2021年) 【令和3年度病床機能報告】①					現状【指定・届出等】					2025年【病床機能】② ※下段は現状との差 (②-①)					機能変更あり	うち過剰な病床機能への転換	うち増床	2025年に向けた対応方針（抜粋）									
	一般病床	療養病床	精神病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病床	地域包括ケア病床	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支	高度急性期	急性期	回復期				慢性期	休棟中	介護医療院等	計	今後地域で担う役割等	病床機能の変更予定 (増床・減床を含む)	診療科や、その他の機能の変更、見直し等の予定			
湘南太平台病院	許可病床	38	44			82		16	66		82	○				○				22	57			79	●		●	●	今後地域における回復期機能を担う	2020~21年に、地域に不足する回復期機能を提供するため、回復期（地域包括ケア病棟）に変更予定。 一 令和3年に16床を慢性期から回復期（地域包括ケア病床）に変更。 残り6床は令和4年に変更予定	・一般病床の3床を返還 【理由】 ・返還予定の3床は個室であり、一般病床のフロアとは別の階にあるため令和元年1月より使用実績がない。フロアが異なるため職員の目が十分に届かないという課題があり、今後も利活用が困難であるため返還する。 【時期】 ・2022年9月		
医療法人社団 正拓会	稼働病床	38	44			82		16	66		82	輪番								+6	△9			△3									
山内病院	許可病床	99				99		38	8	53	99	○				○				23	23	53		99	●	●	●	●	地域に果たしている内科急性期入院患者と障害者入院患者の病床を確保したうえで、それ以外の病床（回復機能）を持つことにより、地域の急性期病床の受け皿病院として連携に貢献していく。	地域に必要とされる回復期機能を提供するために一般病床を8床増床、23床を地域包括ケア病床に転換。 ・2019.3月 新棟完成（補助金活用） ・2019.5月 地域包括ケア病床稼働	地域包括ケア病床稼働に伴い、整形外科におけるリハビリテーションを充実させる。		
医療法人山内龍馬財団	稼働病床	99				99		38	8	53	99	告示・輪番								△15	+15			-									
湘南藤沢徳洲会病院	許可病床	419				419	138	281			419	○								147	272			419	●	●	●	●	・減少が予想される年少・生産年齢人口、2025年以降も増加が予想される65歳以上の人口、さらに、全国平均を大きく上回る介護の需要予測指数、これらを踏まえながら循環器、呼吸器、救急の受入の強化が必要と考えています。 ・また県内の他の医療圏と比べ小児科病院数が少ない当医療圏では、これまで以上に小児科の機能充実が必要と考えられます。合わせて、病児保育、病後児保育の機能、ならびに小児レスパイトケアの機能への取り組みも必要と考えます。	・2018年のプラン提出から一部病床機能の変更を実施（2019年7月1日付け）。HCU13床をICU12床へ変更したことにより、現在の病床機能区分は高度急性期138床、急性期281床となっている。 ・現在、ICUからの転棟先は一般病棟のみとなっており、病棟スタッフにも集中的・専門的なケアが求められることがある。医療安全、スタッフの業務軽減のため、ステップダウンユニットとしてHCU（最大9床程度）の設置が必要と考えており、変更時期は2020年度を予定しているが、看護師等スタッフの確保により時期は多少前後することがあり得る。			
医療法人徳洲会	稼働病床	419				419	138	281			419	告示・輪番								+9	△9			-									
湘南慶育病院	許可病床	30	200			230		30	150	50	230	○								30	150	50		230									・地域包括ケア病棟50床のうち20床の病床種別を療養病床から一般病床に種別変更を行う。 【理由】 ・令和4年の診療報酬改定に対応するため。 ・変更後も現在提供している急性期医療からリハビリテーション医療までのシームレスな医療体制に変更はなく、病床機能の変更もない。 【時期】 2022年9月以降
医療法人社団 健育会	稼働病床	30	200			230		30	150	50	230	告示	50床	100床						-	-	-		-									
茅ヶ崎中央病院	許可病床	100				100		100			100									104	100	272		476	●	●	●	●	①急性期機能と救急医療の提供 ②回復期リハ病棟にて、早期から維持期までのリハビリテーションの提供 ③超高齢化社会の中で、長期療養を要する患者への充実した医療・看護ケアの提供 ④在宅サービスとの連携による地域包括ケアの推進	・現在、平成27年度病床整備事前協議において配分した療養病床100床について二期工事中（令和4年12月竣工予定） ＜令和5年1月＞ 【従前からの計画】 ・茅ヶ崎新北院より、124床の移設と100床の新規増床により、急性期100床から324床（急性期104床、回復期100床、慢性期100床）へ増床（透析センター（コンソール18台⇒25台）、リハビリテーションセンターの拡張（700㎡）） ・これにより、急性期から回復期、慢性期までの一環した治療が中心市街地の一医療機関にて提供できる	＜令和7年初頭（令和6年度）＞ 【昨年示された新たな計画】 ・隣接地である茅ヶ崎第一駐車場の跡地土地利用事業の優先交渉権者として採択されたことを踏まえ、三期工事を令和4年9月頃開始、令和6年末頃竣工予定 ・茅ヶ崎新北院より152床の移設により、3病棟を開設し、324床から476床へ増床予定 ・新病棟には、感染症対策病室を設置し、感染対応を強化予定 ・新病棟にて、神経難病への対応を強化予定		
医療法人社団 康心会	稼働病床	100				100		100			100									+4	+100	+272		+376									

上段 医療機関名 下段 開設者名	現状【病床種別】					現状(2021年) 【令和3年度病床機能報告】①					現状【指定・届出等】					2025年【病床機能】② ※下段は現状との差 (②-①)					機能変更あり	うち過剰な病床機能への転換	うち増床	2025年に向けた対応方針(抜粋)			
	一般病床	療養病床	精神病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病床	地域包括ケア病床(病床)	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期				慢性期	休棟中	介護医療院等	計
茅ヶ崎新北陵病院	許可病床	168	108		276			58	218		276									0	0			0	<p>・急性期医療機関との連携をより一層図り、急性期治療の後、地域における後方病院としての役割を慢性期病床で担う。</p> <p>・自院が運営する居宅介護支援事業、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ等の在宅サービスをさらに充実させて、地域包括ケアシステムの中で、医療と介護の両サービスをシームレスに提供する。</p> <p>・精神病床を有することにより、今後ますます増加する認知症の高齢者を受け入れるとともに、合併症への対応を充実させる。</p>	<p>＜令和7年初頭(令和6年度)＞ 【昨年示された新たな計画】 茅ヶ崎中央病院の三期工事完了後、残る152床を全て移設</p> <p>＜令和7年夏頃＞ ・茅ヶ崎新北陵病院内の改修工事を経て、2階3階に湘南さくら病院(精神単科病院)より、精神病床156床を移設、4階5階に介護老人保健施設ふれあいの丘を移転 ・現在、周辺住民が利用されている、外来診療機能及び介護保険による在宅サービス機能は継続する計画。茅ヶ崎新北陵病院の工事期間中も周辺住民が継続してご利用できるように、現在行政機関と調整中。</p> <p>＜参考＞ 茅ヶ崎新北陵病院で行われている外来診療内科 ⇒整形外科、歯科 等 茅ヶ崎新北陵病院で行われている在宅事業 ⇒通所リハビリ、訪問看護、訪問リハ、訪問介護、居宅介護支援</p>	
医療法人社団 康心会	稼働病床	168	108		276			58	218		276			58床				-	-	△58	△218			△276			
湘南東部総合病院	許可病床	243	40	44	327	4	227	40	12		283	○	○	○					214	40	29			283	<p>・急性期から緩和医療までの医療を担う総合病院として、単なる総合病院でなく専門性の高い診療科を有する病院を構築したい。すなわち、湘南地区で発病した脳疾患、心疾患、呼吸器疾患等の患者さんを救急センターで受け入れて診察し、その専門性の高い診療科で診断から治療まで行う、いわゆる地域完結型総合医療を目指します。</p> <p>・患者さんは自分の居住地域で十分な医療を受けることができる。そして、その後、在宅医療への展開など、地域に密接に関連した役割を担ってまいります。</p>	<p>・2020年3月 21床減床 当グループ茅ヶ崎中央病院立替え工事に伴い病床移動していた21床分を開設に伴い返還する。</p> <p>・71床(急性期)の増床 病床配分があった場合には71床を予定している。</p>	<p>・肝臓専門医に加えて、後期研修医、肝臓専門医1名を招聘し、肝臓病センターとして診断と治療、外来通院を一本化した診療科を目指す。臨床研究のため研修を、専門病院として高レベルの診療を行うためにFibroscanや脂肪測定CAPを搭載した超音波機器の導入(二年間で償還)とそれらを駆使できる専門医が認定する検査技師を肝臓病センター特別枠として採用する。これからはウイルス肝炎の個別とともに肝細胞がんの薬物治療の時代となるため、より画像診断、化学療法のプロフェッショナルが必要で、神奈川県では突出した診療科を作ることが容易である。さらに、公益財団法人ウイルス研究財団の後押しも可能であり、他施設とは異なるユニークな診療科を構築することができる。</p> <p>・脳神経センターとして脳外科及び脳神経内科の体制を充実させることで脳卒中(t-PA治療)等への対応できる体制の見直しを予定(2019年度以降)</p> <p>・心血管外科スタッフの加入に伴い、グループ内臓専門病院と当院の循環器内科との連携により、質の高い循環器及び心臓疾患の治療を予定している(2019年度以降)</p>
医療法人社団 康心会	稼働病床	243	40	44	327	4	227	40	12		283	告示	32床	40床				△4	△13	-	+17			-			

